

## 成蹊学園サステナビリティ教育研究センター リレーコラム(8)

### JST「さくらサイエンスプラン」で南開大学の学生さんたちがESDセンターを訪問

静岡大学 呉 偉



2020年1月14日(火)から1月17日(金)の4日間、中華人民共和国の天津市にある南開大学の学生さんたちが、JST(科学技術振興機構)が行っている「さくらサイエンスプラン」の一環として、成蹊大学、理化学研究所、横浜市立大学を訪問しました。「さくらサイエンスプラン」については、南開大学の王瑋先生と私が、連絡を取り合いながら、JSTに申請して採択されたものです。この期間、学部2年生を中心とした9名が引率の王瑋先生と行動し、情報科学分野における持続可能な研究開発について施設を見学するとともに各所で交流を深めました。また、成蹊大学からも、私と4年生の加藤尚瑛さん(現在、成蹊大学の修士1年生)が引率しました。

成蹊大学では、ESDセンター(サステナビリティ教育研究センター)を訪問し、センターの概要や成蹊学園が積極的に取り組んでいるESD(Education for Sustainable Development)の活動について所長から紹介を受けました。近年、南開大学も「持続可能な科学及び経済発展」について研究や活動を進めており、この日も、ESDセンターのミーティングルームで、両大学の教員、学生ともに活発な議論を行い、交流を深めました。その後、成蹊小学校において、畝田慎一郎事務長と山本剛大先生のご案内により、成蹊学園の「けやき循環プロジェクト」の一部であるミツバチの生態についての授業を見学しました。さらに、東京都武蔵野市の「武蔵野クリーンセンター」において最新のゴミ処理技術や市が行う環境への取り組みについて学びました。

成蹊大学訪問の際には、ESD研究だけでなく、理工学部情報科学科のモデリング&アルゴリズム研究室(池上研)において、情報科学分野における共同研究やプロジェクトの可能性について議論を重ねました。懇親会では、様々な楽しい話題で盛り上がり、両大学の教員と学生は、南開大学の学生さんたちが帰国してからも交流を続けています。

4日間の交流活動は、南開大学の学生さんだけでなく、理化学研究所、横浜市立大学、成蹊大学の学生や教職員にとっても有意義なものとなりました。

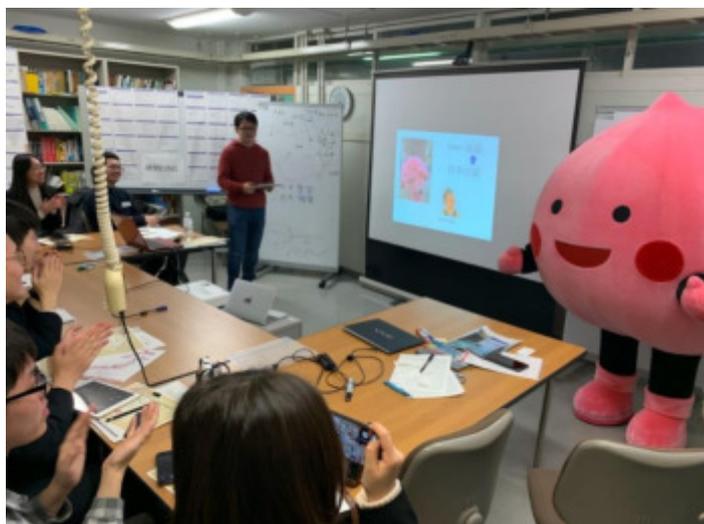


図1 モデリング&アルゴリズム研究室でピーチくんとの出会い



図2 成蹊小学校で「ミツバチの生態」授業を見学



図3 ESDセンター（サステナビリティ教育研究センター）を訪問

#### 筆者のプロフィール

呉 偉（ご い）中国上海出身。2017年名古屋大学大学院情報科学研究科博士(情報科学)、  
2017年成蹊大学工学部の助教、2020年静岡大学工学部助教。

専門は、オペレーションズ・リサーチ、数理最適化、組合せ最適化。

特に、ロバスト最適化に興味を持つ。